

"ちば"でしかできない暮らし・しごと・働き方スタイルをつくる。

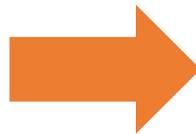
# 「ハブシティ千葉」構想

カレッジリンク千葉

# 千葉は、日本の縮図です。 千葉の課題解決が、日本・世界の課題解決につながります。

## 現状

- 1.都市機能の一極集中(日本-東京、千葉県-千葉市)
- 2.千葉県全体で人口減少
- 3.少子高齢化
- 4.横のつながりが弱い(県内、域内、市内)
- 5.実現可能性、持続可能性のあるビジョンを描ききれていない



## 課題

- 1.機能の分散
- 2.人を呼び込む
- 3.年齢関係なく住みやすい環境づくり
- 4.コミュニティ形成力の強化、つながる誘因がない
- 5.千葉ならではの創る

# 「ハブシティ千葉」

ココロとトコロ、うけとり、わたす。

会いたい人が集まれる場所づくり。そして、つながりたい人とつながれる小さなコミュニティ。

人とのつながりをどのように築いていくかが、地域、そして世界の課題となる。

地域の取組みをいつか、世界の課題解決へとつなげていくために。

千葉のそれぞれの地域が持つ、特色や特長を活かし、集めたい人を集める。作りたい街にする。

一極集中社会を脱却し、自立→共有→共成→共創を実現するための仕組み。

それが、「ハブシティ千葉」構想です。

それぞれの地域の特色を活かしたハブを設置し、各地域が最新の事例を実行。それらの事例を共有することで、千葉県全体にさまざまな波及効果を見込む。また、SDGsの取組みを組み合わせることで、新たな千葉の価値を生み出す。

**千葉市**  
**戦略策定/実行/評価のハブ**

【活かすべき地域の特色・資源】  
千葉県の中心地として、さまざまな情報の発信地であり、集約地としての役割を担う。



**市原市**  
**アート・芸術のハブ**

【活かすべき地域の特色・資源】  
・数年前から始まったいちほらアート×ミックス





**君津地域**  
**起業家・スタートアップのハブ**

【活かすべき地域の特色・資源】  
・東京湾アクアライン/圏央道による交通アクセス  
・商工会議所や市による起業家支援体制

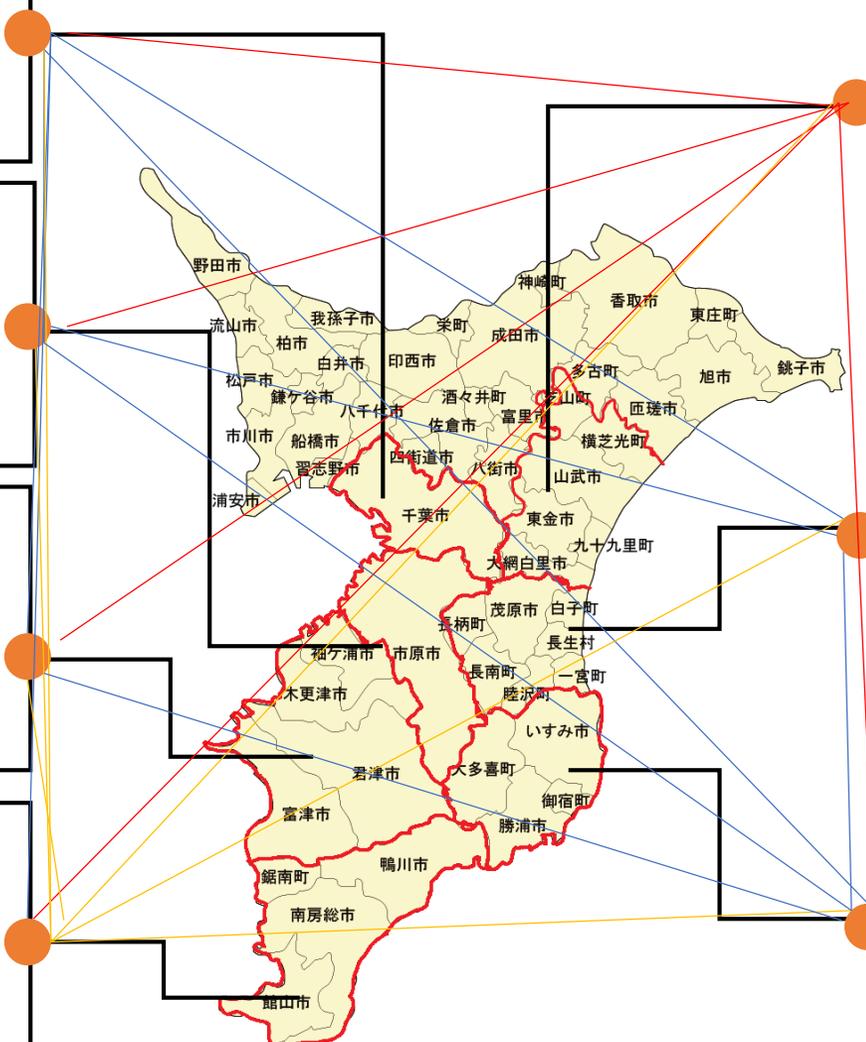





**安房地域**  
**AI・IoTのハブ**

【活かすべき地域の特色・資源】  
・南房総国定公園があり、安全な自然豊かな地域  
・観光施設、レジャー施設も充実している



**山武地域**  
**観光・ニューツーリズムのハブ**

【活かすべき地域の特色・資源】  
・成田空港から近い立地。  
・海、山など自然に恵まれた地域。  
・近隣に存在するニュータウンという住環境。





**長生地域**  
**農業と6次化のハブ**

【活かすべき地域の特色・資源】  
・農業が盛んな地域で、それぞれの市区町村で名産品があること  
・長生（ながいき）ブランドの野菜がある  
・複合型リゾート「リソル生命の森」の存在







**夷隅地域**  
**漁業と6次化のハブ**

【活かすべき地域の特色・資源】  
・港と解散品の多さ/昔からの漁師町という歴史  
・解散特産品と観光業のリンクが進んでいる



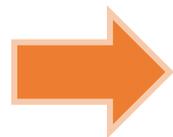




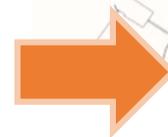
## 千葉市が担う役割

千葉県の中心地として、さまざまな情報の発信地であり、集約地としての役割を担う。

戦略



実行



分析

- ・各地域が持つポテンシャルを生かし、それぞれがどのようなハブになるべきか具体的な戦略を策定。
- ・千葉県の中心地としての利点を生かし、さまざまな情報を吸収し、同時に発信していく。

- ・各地域がコンセプトをもとにリーダーシップを発揮するサポートをする。

すべてのハブを統括するポジションに立ち、バランスの役割(それぞれの地域のバランスを考え、各市町村を標準的な機能を有する水準をもっていく調整役)を担う。

# それぞれの地域が自立しつつ、 事例の共有と共創が可能な仕掛けが必要

## ■ 地域間サミットの開催（年1回程度）

→各地域の取組み事例の紹介。それぞれの取組み事例を知ることで、地域間同士のつながり方を模索し、新たな価値の創出を目指す場。

## ■ お試し移住の推進

→現在、移住のためには住居の購入という大きなハードルがある。域内不動産業者と連携し、空き家を賃貸物件化し、「お試し移住」ができる環境づくりを推進する。

## ■ ニコニコ超会議 千葉共創都市圏版の開催

→行政や一部の人たちだけの施策ではなく、一般の人が参加できる会議の開催。AIやIoTのハブが中心になり、WEB参加による多数の人の参加を目指す。

# 温暖な気候が育んだおおらかな県民性が、 つながりを作る原動力となる。

## 【千葉県の県民性】

埼玉県と同様、よそ者ルーツで、県民の約半数が他県出身。多いのは東京、埼玉、北海道、茨城からの移住者。北海道は漁業関連で、茨城は昔からのつながりが強かったから。そのため人々の郷土意識が低いのが特徴。南北に長い千葉県は、大きく北部、南部・東部の2つに分けられる。進んだ南部・東部は南国情緒の温和でおおらかな性格で、一族の連帯感が強い。ただし東部には保守的でまとまりに欠ける特徴も多少ある。

※出典：プレジデントオンライン「47都道府県別・県民性大図鑑」



■ 県民の約半数が他県出身者であること

→ 移住者に対しての抵抗がそれほどなく、受け入れやすい

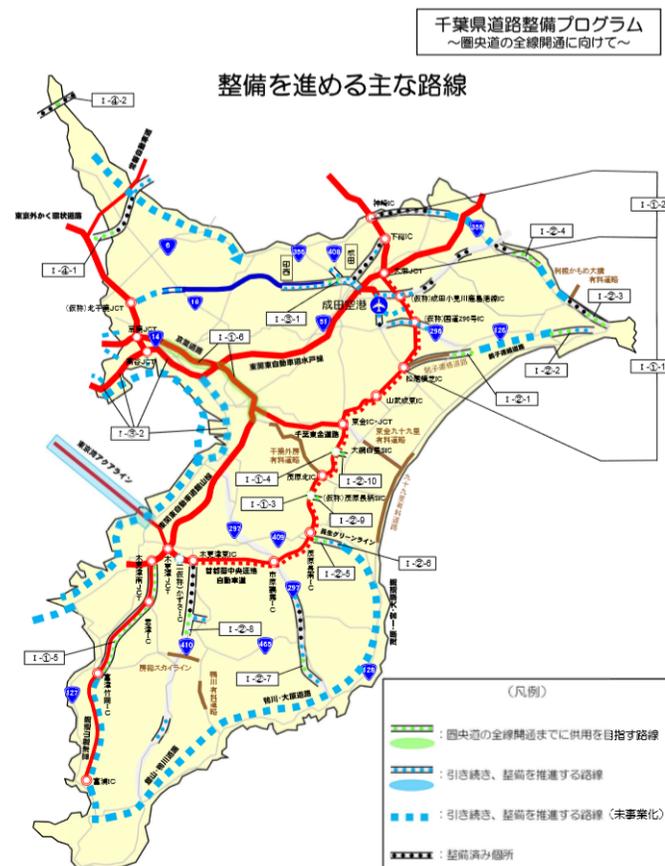
■ 南部・東部は南国情緒のおおらかな性格

→ つながりを作りやすいあたたかな性格

# 広域的な幹線ネットワークで人の往来が多い土地柄

- 東京湾アクアラインと一体となつてつながる圏央道の全線開通や4車線化の整備進展により、成田・羽田両空港の連携が強化されるだけでなく、東日本と西日本をつなぎ、さらには北関東や東北まで及ぶ広域的な幹線道路ネットワークが構築される
- 銚子連絡道路、長生グリーンラインなどの地域高規格道路、高速道路のインターチェンジにアクセスする国道
  - 県道や県境を連絡する道路の整備について強力に推進する必要があります

千葉県道路整備プログラム  
 ～圏央道の全線開通に向けて～  
 千葉県道路計画課 道路整備課



## 物流拠点の「ハブ」として発展を遂げてきた歴史

- 年間貨物出荷量を都道府県別にみると、愛知県、千葉県、神奈川県、大阪府、北海道、福岡県、兵庫県、茨城県、東京都、岡山県の順に出荷量が多く、この上位10都道府県で全国の50.3%を占めている
- 地域間流動では、関東～中部間流動が全地域間流動量の11.8%を占めており、このほか近畿～中部間、近畿～中国間、関東～近畿間、関東～東北間、中国～九州間の各流動が上位に位置しています

知（情報）の集積

域内経済の活性化

- 広域サミットの開催（年1回程度）
- 専門家の常駐
- 最新情報の共有

- 先住事業者との連携
- 新規事業者のサポート

行政機関  
（産業支援センターなど）



商工会議所  
（半官半民）

ハブ機能を持つコミュニティスペースの開発

- ・ 空き家の活用  
（各地域の空き家バンクの活用）
- ・ 民間への委託業務化  
（コワーキングスペース運営者など）
- ・ 千葉市からの専門家の派遣  
（大学の研究者など）
- ・ 商工会議所の会員との連携  
（先住事業者との連携）

- 移住・定住促進
- 仕事をする場所と生活する場所の紹介

- 地域資源の産業化

人材の流動性

地域資産の再発掘

# つながりがわくわくを生み出す

1市1市が自立し、「ならでは」をつくり、共有することで各分野を牽引していく存在となる。

I.各市町村を標準的な機能を有する水準にもっていく

II.各分野の先駆者になる



# 「ハブシティ千葉」を、どのように伝えるか？

千葉共創都市圏

SDGs宣言を行い、世界の課題解決に尽力することを発信する。

インナープロモーション  
域内の人にどう伝えるか？

## 「ハブシティ」への理解を促すプロモーション施策

説明会  
講演会  
シンポジウム

アウトプロモーション  
外部の人をいかに動かすか？

## 人のアクションを促すプロモーション施策

プレスリリース  
→マス媒体への訴求  
WEBプロモーション  
→オウンド/ペイド/ソーシャルの活用  
印刷物  
→地域の魅力を伝える冊子の作成  
動画  
→各地域の動画を各自が制作